

「葛城」を歩く

この度は第五回廣田鑑賞会のチケットをご購入いただき、誠にありがとうございます。

今回、お蔭様にて記念の会を迎えることが出来ました。私が演じます能「葛城」、宗家金剛永謹師の舞囃子「井筒」ともに奈良を舞台の演目で統一いたしました。同じ近畿ですが、奈良と京都はまた違った雰囲気があります。今回の葛城紀行でも人と神とが隣り合わせにいるような、ゆったりとした太古の時間の中に身をおいた気がしました。

京都駅から近鉄橿原神宮前で乗り換え、近鉄御所駅までは待ち時間を含めて一時間半弱。ロープウェイの運行時間の関係で車を利用せざるを得ませんでしたが、目標の一言主神社（境内に土蜘蛛を封じ込めた塚があった）や葛城山、金剛山山頂に加え、橋本院、九品寺、極楽寺、豪族葛城氏の先祖を祀る高天彦神社、八咫鳥（やたがらす）の高鴨神社など葛城地方の古跡を一日かけて回って参りました。

金剛山は昔、葛城山、岩間山といったそとで、現在の葛城山とは水越峠を隔てた奈良県と大坂府の堺に位置する標高1225メートルの山です。ロープウェイであがると山頂一帯には葛木神社、雄略天皇のお狩場、葛城一族の御廟所などや役行者ゆかりの古刹、転法輪寺があり、今も修験道の霊場として名高い場所です。金剛山を降り、葛城山に向かう途中、「高天原の岩戸の舞」の詞章のとおり、天香具山の大和三山が向いに見下る場所に「高天原」の地名を見つけて思わず車をおりました。葛城の神が大和舞を舞われたのは、まさにここではないかと錯覚するような思いがいたしました。

常々詞章では解っているつもりで謡っておりますが、やはりその舞台となった土地を訪ねますと距離感など改めて確認されることや、全く新しい発見があります。私にとって何よりの収穫は、その曲の作られる背景となった空気のようなものを、ほんの僅かでも自分の肌で感じる事です。葛城の神の、神々しくも艶のある舞台を演じられたらと存じます。

当日のご高覧を、心よりお待ちしております。

廣田幸稔

平成十七年 長月吉日

「高天原」の標識



耳成、畝傍、天香具の  
大和三山（葛城山中腹から）

金剛山山頂  
葛木神社



葛城の大神を祭る一言主神社



金剛山 葛城一族御廟

